

土地改良事業計画設計基準 計画「暗渠排水」技術書（平成 30 年 5 月 30 日 30 農振第 792 号農村振興局農村政策部農村環境課長通知） 一部改正新旧対照表

(傍線部分は改定部分)

改正後	現 行
<p>1. 暗渠排水整備の変遷～17. 暗渠の配置と関連事項 (略)</p> <p>18. 暗渠を利用した地下かんがい (略)</p> <p>(1) 地下かんがいの特徴と目的</p> <p>ア. (略)</p> <p>イ. 地下水位制御機能がある場合の特徴は次のとおりである。</p> <p>(ア) 水稻の乾田直播栽培(畑状態の田に種子をまき、苗立ちした後にかん水する栽培方式)や大豆、野菜等の栽培において、播種後に地下かんがいをういて土壤水分を調整し、ほ場全体の乾湿状態を一様とすることで、発芽、苗立ちが安定化・均一化する。</p> <p>また、乾田直播栽培や無代かき移植栽培では、均平作業にレーザーレベラーが利用され、<u>一般的には代かきが行われない</u>ことから、代かきに伴う濁水の発生がなく、作土や肥料の流出も抑制されるため、水田地帯の水質環境への負荷が軽減される。また、<u>水田の畑利用時は下層土における土壤の団粒構造や亀裂等が維持できるため、生育、収量の向上が期待できる。</u></p> <p>(イ)～(エ) (略)</p> <p>ウ.～エ. (略)</p> <p>(2) 地下かんがいの分類 (略)</p> <p>(3) 適地とその条件</p> <p>地下かんがいの実施に当たっては、地下かんがいに効果的な地形や土壤、<u>水利</u>条件が求められるため、十分な調査を行い、適地を選定する必要がある。</p> <p>また、地下かんがいでは、暗渠管から作土層に向かって水が上向きに円滑に移動することが重要である。一方、暗渠管下方向や畦畔を横切る横方向の過度な浸透は、円滑な地下かんがいを妨げることや、用水量増加の要因となることから注意が必要である。</p> <p>ア.～ウ. (略)</p> <p>(4) 組織と配置～(6) 留意事項 (略)</p> <p>19. 暗渠溝の構造と機能～36. 暗渠排水組織計画に関する調査事例 (略)</p>	<p>1. 暗渠排水整備の変遷～17. 暗渠の配置と関連事項 (略)</p> <p>18. 暗渠を利用した地下かんがい (略)</p> <p>(1) 地下かんがいの特徴と目的</p> <p>ア. (略)</p> <p>イ. 地下水位制御機能がある場合の特徴は次のとおりである。</p> <p>(ア) 水稻の乾田直播栽培(畑状態の田に種子をまき、苗立ちした後にかん水する栽培方式)や大豆、野菜等の栽培において、播種後に地下かんがいをういて土壤水分を調整し、ほ場全体の乾湿状態を一様とすることで、発芽、苗立ちが安定化・均一化する。</p> <p>また、乾田直播栽培や無代かき移植栽培では、均平作業にレーザーレベラーが利用され、<u>代かきを行わない</u>ことから、代かきに伴う濁水の発生がなく、作土や肥料の流出も抑制されるため、水田地帯の水質環境への負荷が軽減される。また、<u>下層土における土壤の団粒構造や亀裂等を維持することができるため、水田の畑利用時は作物の栽培条件が改善され、収量の向上が期待できる。</u></p> <p>(イ)～(エ) (略)</p> <p>ウ.～エ. (略)</p> <p>(2) 地下かんがいの分類 (略)</p> <p>(3) 適地とその条件</p> <p>地下かんがいの実施に当たっては、地下かんがいに効果的な地形や土壤、<u>水利</u>条件が求められるため、十分な調査を行い、適地を選定する必要がある。</p> <p>また、地下かんがいでは、暗渠管から作土層に向かって水が上向きに円滑に移動することが重要である。一方、暗渠管下方向や畦畔を横切る横方向の過度な浸透は、円滑な地下かんがいを妨げることや、用水量増加の要因となることから注意が必要である。</p> <p>ア.～ウ. (略)</p> <p>(4) 組織と配置～(6) 留意事項 (略)</p> <p>19. 暗渠溝の構造と機能～36. 暗渠排水組織計画に関する調査事例 (略)</p>